



オリジナル設計 施設本部東日本施設部施設二課

田村 孝太さん

は後からでも十分身に付くので大丈夫です。文系・理系問わず、どんな学問であっても活かしていけると思います。

■新たな成長の糧に

コロナ前から積極的に働き方改革を進めてきたこともあり、全社員へのタブレットPCの支給や在宅勤務の導入など、かなり柔軟性を持っている会社だと思います。改善点があれば、若手・中堅社員が集めた意見を聞き入れる機会を設けているので、声が届いている実感があります。きつと自分に合った働き方が見つかるでしょう。

また、仕事面においてもOJTによる新人教育はもちろんのこと、部長などが相談役となる設計内容の審査会というものもあります。会社全体として、より良いものを提供するというイメージや方向性が共有できているからこそ、経験を踏まえ、多角的な意見が新たな気づきを与えてくれる場にもなっています。

初めは誰もが初心者で、できないことのほうが多いです。互いに支え合いながら、一丸となって一つの成果品を作り上げるということが、自身の領域を広げ、成長につながっていくと思えます。私たちがともに日常の水を守っていきましよう。

を重視して設計を進めるため、デスクを離れた仕事も多くあります。要望を形にするまで、半年〜

3年の長期で進めていくので、お客さまと二人三脚で検討・提案を重ねながら、お互いに納得できるまで良いものを一緒に作っていく感じです。設計内容に対して良い評価をいただけた時は、正直に嬉しいですね。

■かみ砕いて提案する仕事

水コンサルタントの仕事は、お客さまが持つイメージを設計により具体化させ、わかりやすく伝える仕事です。私たちが持ち合わせる技術力や知識量を存分に発揮して、相手が思い描くイメージに合致するものを形作っています。

一見、デスクワークのイメージがあるかと思いますが、現地調査の結果

■自分の仕事に誰かのために

人体の約70%が水という話があるように、水は私たちの生活に直結し、生きていく上で欠かせないものです。その水を運ぶ上下水道

は、何不自由なく使用できることが当たり前と認識していました。しかし、実際にはその当たり前を維持するための下支えをしている仕事が存在し、私たちの日常が保たれていることに気づき、陰ながら社会を支えている姿に興味を持ったことが、水コンサルタントを知りきっかけになりました。

大学では、建築構造系の研究室に属していたので、特別水に詳しいわけではありませんでしたが、入社直後から東日本大震災で被災した処理場の復旧作業に携わった経験が「持てる知識を通じて誰かの役に立ちたい」という思いを強くしました。

今年で入社11年目になります。右も左もわからない状態からスタートした仕事でも、知識や技術



イメージを設計の形に